

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3370107801		
法人名	社会福祉法人センチュリー岡山		
事業所名	グループホーム 福治の里(Aユニット)		
所在地	岡山市東区福治733		
自己評価作成日	平成23年11月20日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=3370107801&SCD=320&PCD=33
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社ハートバード		
所在地	岡山県倉敷市阿知1-7-2-803 倉敷市くらしきベンチャーオフィス7号室		
訪問調査日	平成23年12月19日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「縁あって出会い、温もりをもって接し、お互いの絆が深まり、笑顔が生まれる福治の里(縁温絆笑)」をモットーとし、入居者個々の尊厳を大切に安心した生活が送れ、「満足」していただける介護をめざしている。誠意ある介護(心の介護)をめざして自己研鑽に努め、入居者とのより良い信頼関係の構築に努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

田畑が広がる自然に囲まれ、笑顔の絶えない職員と共に、利用者はゆったり、のびのびと暮らしている。母体法人が取り組む「心の介護」を実現するために、管理者は、毎日の繰り返しに慣れ、小さな変化に鈍感になってはいけなと考えている。それゆえ、飾り付けなどをわずかに変え、職員に「昨日と何か違う所はない?」と時々質問し、常に全職員が気づきの能力を高められるよう、努めている。その気づきが、絶え間のない改善と工夫につながっている。また、毎日の浴室排水溝の奥部分の分解清掃や、厨房から出る食廃油をせき止めて分離する阻集器「グリストラップ」の定期清掃など、建物内の環境だけでなく、周辺への影響を最小限に留めようとする配慮が素晴らしい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関・トイレなどの良く見える所に掲示することにより全員周知している。また、入職時研修でも理念の理解と確認をしている。	「縁温絆笑」の理念は申し送りや研修時を通じて全員に浸透し、笑顔で接する職員を見た利用者も笑顔になる光景から、理念が実践されているのがわかる。さらに理念を盛り込んだ目標の作成と自己評価により、意識を高めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方々が遊びに来ていただける環境はできており、散歩途中などに声をかけていただいたり、季節の野菜を頂く事もある。地元の商店に買い物に出かけている。	町内会に入り、各種お知らせを回覧してもらっている。民生委員からも行事案内が来る。周りは田畑で民家は少ないが、散歩の時に挨拶し、野菜をもらうこともある。定期的に利用者と近隣に買い物に行き、地域とのつながりを体感してもらう。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ホームの行事などに近隣施設からも参加していただき交流を図っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、その意見サービスを向上に活かしている	介護サービスの実施内容の報告、評価、意見を頂く機会を設けている。また、参加者間の情報交換の場作り、家族のニーズの把握に努めサービス向上を図っている。	数名の家族が毎回参加している。事業所は、日頃の状況やきめ細かいケアの実施を説明したり、家族の疑問に答えたりしている。民生委員や地域包括支援センターの職員も出席し、互いの理解と協力を得る場となっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括センター担当者には、運営推進会議への参加をいただき地域の情報・状況について連絡・協力を密にしている。行政機関とも関係は密にしている。	市とは気軽に相談できる関係が築けている。地域包括支援センターとは、運営推進会議を通じて良好な関係ができた。困りごとなどに、親身に対応してくれる、頼れる存在である。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	門扉・玄関は施錠せず(開閉は自由)園内を自由に散歩できるようにし、見守り強化している。委員会の設置、マニュアルを策定し職員の周知を行っている。	職員の見守りで、広い庭を散歩する利用者がいた。普段から耳を澄まし、目配りし、夜間でも少しの音に気づいて対応している。対策委員会や定期的な研修で、言葉による拘束にも注意が注がれ、拘束しないための代替手段を常に講じている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	委員会・マニュアルの設置、研修など法人全体で取り組みをしており、職員全員の周知徹底が図られている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設内研修計画に揚げて機会をもち理解を深めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	文章・口答により説明し、理解・納得を得ている。また、自己評価結果、外部評価結果を説明するとともに、開示している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議時・来所時にはコミュニケーションを持ち意見・要望の収集に努め、意見箱も設置しケアに反映できるよう努めている。	特に運営推進会議が、家族の率直な意見を聞ける場として機能している。例えば、看取りの疑問は、その場で説明して安心してもらい、また、職員の名前がわからないという意見に対しては、目につきやすい場所に顔写真と名前を掲示した。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議・ユニット会議で意見交換の場を設けている。また、必要時は臨時カンファレンスを実施している。	会議や日頃のやり取りなどを通じ、職員が意見を言える機会を数多く設けている。管理者の判断は早く、片付け方法の変更等、職員の提案がすぐに実践された。一方で管理者は「なぜその必要があるか」の合理的事由も常に職員に求めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	自己評価・アセスメント・面談などの機会を確保し各自の意見・要望を把握している。また、技術・知識向上の為、研修参加の機会を設けている。個々の得意分野をレクリエーションに反映している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	自己評価・アセスメント・面談などの機会を利用し、個々の得意分野の把握に努めている。個々の希望する研修に参加できる環境を整えている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣施設と交流があり、法人内外の行事、研修会などの参加機会もあり、サービス・知識・質の向上を図っている。グループホーム連絡会に、出来るだけ参加をし情報の収集、共有をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前面接等で、本人や家族より生活歴・趣味・嗜好等の情報収集に努め、スムーズなコミュニケーションによりニーズの把握に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の話に傾聴し理解に努めている。ニーズをお聞きし、できるだけ要望に近づけられるよう話し合いの場を持つようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	できる事できない事、困っている事などを把握しケアに生かせるよう心がけている。可能な場合には、入居前に体験利用の機会を設けている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	尊厳を重んじ、共同生活を送っている。家庭的な雰囲気大切にしながら、役割を持った生活を重視している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人、家族を交えたカンファレンスの実施。広報誌や毎月のカレンダーの送付等で日々の様子などの連絡を行い、行事などへの参加を案内している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族と共に外出の機会をもて本人の願いがかなえられるような働きかけを行っている。希望するところへの外出、外食、買い物等の実施。	家族・親族構成や今までの生活を詳細に聞き取り、どうすればその人の馴染みが満たされるかを考えている。例えば、農夫だった利用者にはイチゴ狩りで収穫を味わってもらったり、関連施設に入居した家族の元へ連れ出したりしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共同制作等においては、職員は個々の有する能力を理解・把握し取り組んでいる。座席にも留意し食事、お茶の時間には同じ席につき団欒を楽しんでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後の施設を訪問したり、転居先のケアマネとの連携を保つようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族の来所時、本人との会話時・生活の中から希望・思いを知り、できる限り思いに添えるように努めている。	利用者の顔色がすぐれない時は「今日は調子悪そうね」と先に声をかけ、傍らでゆっくりと耳を傾けて、思いを引き出している。新聞や貼り絵などを提示して、興味を持ったものをやってもらおう。職員が聞き取った本人の思いを、家族にも伝えている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の生活歴は、本人・家族・ケアマネなどから情報収集してフェイスシートに記載しスタッフ間で情報を共有している。また、新たな情報はその都度、追加記載している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送り・各チェックリストから日々の心身状態を把握して、ミニカンファレンス、夕方の振り返りを行う事により注意事項・統一事項など情報の共有を図っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族を交えたカンファレンスを実施し要望・意向などをケアプランに反映させている。また、課題解決に向けて、前回カンファレンスの評価を事前に行い継続性のあるプランを作成している。	定期的に関くカンファレンスでは家族の意向も踏まえて話し合っているが、片側ユニットでは介護計画の設定期間が長く、その内容が十分に反映されていない。一部記述の抜けもある。また日々の記録では、個別ケアの実施状況がわかりづらい。	日々の記録やカンファレンスを有効に活かせるよう、介護計画の期間設定や、個別ケアの実施状況がわかるような、ひな形の見直しを期待したい。記入漏れの解消も期待する。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	業務日誌内に各自の1日の流れ・特変事項等を記載し、個人記録内に1日の様子・ケアプランに基づいた実践状況などを記載している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	体調や希望に応じて、サービス内容や時間などを変更して対応している。 随時カンファレンスを開催してニーズの把握・情報収集に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域ボランティア(美容室・演芸など)・パン販売などの訪問・祭り・学校行事・地域行事へ参加している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医院より往診対応をしてもらっており、異常時は協力医療機関・希望医療機関への迅速な対応ができています。	入居時に、往診のある協力医にかかりつけ医を変更する人が多い。毎回家族に受診の報告をする。一方、従来のかかりつけ医を継続する場合、家族が付き添い、受診結果を事業所に報告する。管理者が看護師で、医師と密に連絡を取っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師の配置があり、適宜、相談・報告をし異常の早期発見に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際には、情報提供書を作成してスムーズな入院生活が送れるよう支援している。医療機関・家族との連携を図り、病状・様子の把握に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化・看取り介護についての指針を入居時に説明し、意向の確認をしている。主治医との連携により、看取り介護の経験がある。(昨年度 2例)	何例かの看取りにより、主治医との連携体制が確立している。家族へは、入居前の相談時から看取りを説明し、入居時に同意書をとっているが、その後も何回かに分け丁寧に話をしている。本人、家族の意向もそのつど確認し、意識を合わせている。看取り経験のない職員には看護師が付き添い、前向きな気持ちで臨むよう指導している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	施設内研修を実施し、マニュアル作成している。緊急時の対応・連絡先などは一覧表を掲示している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	入居者参加の避難訓練を(2回/年)実施し避難経路の周知を図っている。また、担当消防署より資料を提供してもらおうなど協力を頂いている。	実践的な避難訓練により、職員は消火や通報、避難方法などを熟知している。近隣との協力体制もできている。災害対策マニュアルも完備している。法人の理事に専門家がいて、地震や洪水への耐性が高いと証明されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	カンファレンス時の項目としても取り上げ、居室に入る時はノック・声かけを行い了解を得るようにしている。また、面会者来所時は基本的に居室対応してプライバシーの確保に努めている。	トイレ誘導など利用者に応じた言葉かけができていない。居室への入室も呼びかけとノックにより、きちんと確かめていた。しかし、排泄チェック表や入浴チェック表が、だれからも見えやすい場所に置かれていた。	排泄や入浴を記録する表は、利用者や家族に見えにくい位置に置くか、名称を変えたり、個人別にするなど、他人の目を避けるような工夫を期待したい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	生活の中での会話・表情から思いを感じ取りできる限り実現できるように支援している。 外出(買い物・祭り・1日旅行など)の企画は、自身の希望によって参加できるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかな日課はあるが、個々の体調・希望に合わせて、個別対応している。 レクリエーションは個別・数人で行う物など数種類からの選択ができるようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服装を自身で選択できるように支援している。 髭剃り・整髪は、声かけ・介助などにより実施している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備(食材下処理・テーブル拭きなど)・調理(味付け)・片付け(下膳・洗い物など)声かけをしてお手伝い頂き、食事時間を制限せず、個々のペースで食事を楽しんでもらっている。	下ごしらえや机拭き、下膳など、できる範囲で利用者に手伝ってもらう。昭和20～30年代の音楽をかけ、職員も一緒にテーブルを囲み、楽しく食事できる雰囲気を作っていた。おいしいと利用者に好評で、食べ残しがほとんどない。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	盛り付けに配慮し、誕生日メニューなどの工夫を凝らしている。 水分・食事摂取量が少ない方は、個別表で詳細な把握に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々にあった物品を使用し、毎食後、自身でできる方は声かけをして、介助の必要な方は義歯の洗浄など口腔内の清潔保持を支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表によりパターンの把握をしている。誘導、見守り、介助など個々に合わせた支援を行っている。	多くの利用者はリハビリパンツを使用している。排泄チェック表や利用者の様子から、早めに言葉をかけ、誘導しているので、排泄の失敗は少ない。トイレはすっきりと整頓され、清潔だった。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便目標を2回/週として、排泄チェック表を利用し個々に応じた調節をしている。また、食事内容の工夫、水分補給に努め、体操、散歩など運動不足の解消を図っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	日課としては、午後入浴が基本だが、希望時、必要時などは、時間帯を限らず随時入浴支援している。	入浴は週3回を基本としているが、利用者の状態により、柔軟に対応している。各人が好む入浴方法や洗い方を職員で共有し、実施している。複数個所から一斉放水できるシャワー浴が設置され、浴槽に浸かれない利用者にも喜ばれている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の睡眠パターンを崩さないように配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人記録内に薬の説明書をファイルしており、いつでも確認できるようにしている。服薬確認には、工夫を凝らし誤薬を防止している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事作業(洗濯・洗物・下処理など)を共にしたり、レクリエーションは1名から数名単位で実施するものと数種類(貼り絵・ボール遊び・塗り絵など)を提供し、好むものに参加されている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	可能な限り、買い物などの外出に同行している。また、本人の思いを家族に伝え協力いただき、実現できるように支援している。	広い庭があり、天候が良い時は毎日、日光浴や散歩をする。敷地内の菜園の様子を見る人もいる。利用者が広告を見て行きたくなくなった店やイベントがあれば、月1~4回のペースで、必ず管理者同行のもと、車で外出する。家族が連れ出すこともある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の了解を得て現金を所持し、外出時には財布を所持して各自の欲しい物が購入できるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時に随時対応している。 昨年は、クリスマスカードを希望者と共に作成し、郵送された入所者の方もいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースは入居者同士のトラブルがないように常に見守り、スタッフ間の声かけを行っている。家庭的な雰囲気作りを心がけ、回想を促せる物を配置したり、動きのある物、季節を感じられる物を作成している。	床、トイレ、窓はもちろん、エアコン、換気扇、浴室の排水溝まできれいに掃除されている。うつむきがちな利用者がもっと上を向いてもらえるよう、モビールなどを作って吊り下げたり、次回の買い物ツアー日を掲示し、楽しみを感じてもらえるよう、工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	スタッフは、個々の好みの場所を把握しており快適な空間を提供できている。また、談話やレクリエーション、読書など数人で過ごしたり各自の、目的に合った過ごし方を工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の協力のもと、本人の好む家具、使い慣れた道具類を配置したり、写真やカレンダーなどで工夫をしている。	机、いす、仏壇、たんす、テレビ、冷蔵庫など、思い思いのものが持ち込まれている。居室ごとに担当職員を決め、いつも同じ職員が清掃や整理整頓、飾り付けや花の手入れにあたるので、利用者が慣れ、安心して過ごしている。	室内の整頓や掃除で、本人と家族の意向が異なる場合は、家族との話し合いをしっかりとすると共に、本人の入浴中に掃除をするなど工夫して、両者の満足度が高まるよう、期待したい。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	事故防止委員会を1回/月開催し、安全点検の実施をして危険箇所の改善をしている。残存機能を生かした支援、個々に即した補助器具(コール・足元灯)などを活用している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3370107801		
法人名	社会福祉法人センチュリー岡山		
事業所名	グループホーム 福治の里(Bユニット)		
所在地	岡山市東区福治733		
自己評価作成日	平成23年11月20日	評価結果市町村受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

--

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=3370107801&SCD=320&PCD=33
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社ハートバード		
所在地	岡山県倉敷市阿知1-7-2-803 倉敷市くらしきベンチャーオフィス7号室		
訪問調査日	平成23年12月19日		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関・トイレなどの良く見える所に掲示することにより全員周知している。また、入職時研修でも理念の理解と確認をしている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方々が遊びに来ていただける環境はできており、散歩途中などに声をかけていただいたり、季節の野菜を頂く事もある。地元の商店に買い物に出かけている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ホームの行事などに近隣施設からも参加していただき交流を図っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、その意見サービスを向上に活かしている	介護サービスの実施内容の報告、評価、意見を頂く機会を設けている。また、参加者間の情報交換の場作り、家族のニーズの把握に努めサービス向上を図っている		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域包括センター担当者には、運営推進会議への参加をいただき地域の情報・状況について連絡・協力を密にしている。行政機関とも関係は密にしている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	門扉・玄関は施錠せず(開閉は自由)園内を自由に散策できるようにし、見守り強化している。委員会の設置、マニュアルを策定し職員の周知を行っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	委員会・マニュアルの設置、研修など法人全体で取り組みをしており、職員全員の周知徹底を図っている。		

グループホーム福治の里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設内研修計画に揚げて機会をもち理解を深めている。 入居者の中に成年後見制度を利用している方がいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	文章・口答により説明し、理解・納得を得ている。 また、自己評価結果、外部評価結果を説明するとともに、開示している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議時・来所時にはコミュニケーションを持ち意見・要望の収集に努め、意見箱も設置しケアに反映できるよう努めている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議・ユニット会議で意見交換の場を設けている。また、必要時は臨時カンファレンスを実施している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	自己評価・アセスメント・面談などにより、各自の意見・要望を把握できるよう努めている。また、資質向上の為、研修参加の機会を設けている。 個々の得意分野をレクリエーションに反映している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	自己評価・アセスメント・面談などを利用し、個々の得意分野の把握に努めている。 個々の希望する研修に参加できる環境を整えている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣施設と交流があり、法人内外の行事、研修会などの参加機会もあり、サービス・知識・質の向上を図っている。グループホーム連絡会に、出来るだけ参加をし情報の収集、共有をしている。		

グループホーム福治の里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前面接等で、本人や家族より生活歴・趣味・嗜好等の情報収集に努め、スムーズなコミュニケーションによりニーズの把握に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の話に傾聴し理解に努めている。ニーズをお聞きし、できるだけ要望に近づけられるよう話し合いの場を持つようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	できる事できない事、困っている事などを把握しケアに生かせるよう心がけている。可能な場合には、入居前に体験利用の機会を設けている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	尊厳を重んじ、共同生活を送っている。家庭的な雰囲気大切にしながら、役割を持った生活を重視している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人、家族を交えたカンファレンスの実施。広報誌や毎月のカレンダーの送付等で日々の様子などの連絡を行い、行事などへの参加を案内している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族と共に外出の機会をもて本人の願いがかなえられるような働きかけを行っている。希望するところへの外出、外食、買い物等の実施。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共同制作等においては、個々の有する能力を理解・把握し取り組んでいる。座席にも留意し食事、お茶の時間には同じ席につき団欒を楽しんでいる。		

グループホーム福治の里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後の施設を訪問したり、転居先のケアマネとの連携を保つようにしている。状態が改善し在宅に戻り数年後改めて入居されたケースもある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族の来所時、本人との会話時・生活の中から希望・思いを知り、できる限り思いに添えるように努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の生活歴は、本人・家族・ケアマネなどから情報収集してフェイスシートに記載しスタッフ間で情報を共有している。また、新たな情報はその都度、追加記載している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送り・各チェックリストから日々の心身状態を把握して、ミニカンファレンス、夕方の振り返りを行う事により注意事項・統一事項など情報の共有を図っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族を交えたカンファレンスを実施し要望・意向などをケアプランに反映させている。また、課題解決に向けて、前回カンファレンスの評価を事前に行い継続性のあるプランを作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	業務日誌内に各自の1日の流れ・特変事項等を記載し、個人記録内に1日の様子・ケアプランに基づいた実践状況などを記載している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	体調や希望に応じて、サービス内容や時間などを変更して対応している。 随時カンファレンスを開催してニーズの把握・情報収集に努めている。		

グループホーム福治の里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域ボランティア(美容室・演芸など)・パン販売などの訪問・祭り・学校行事・地域行事へ参加している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医院より往診対応をしてもらっており、異常時は協力医療機関・希望医療機関への迅速な対応ができています。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師の配置があり、適宜、相談・報告をし異常の早期発見に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際には、情報提供書を作成してスムーズな入院生活が送れるよう支援している。 医療機関・家族との連携を図り、病状・様子の把握に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化・看取り介護についての指針を入居時に説明し、意向の確認をしている。 主治医との連携により、看取り介護の経験がある。(本年度 1例 ・ 現在 1例)		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	施設内研修を実施し、マニュアル作成している。 緊急時の対応・連絡先などは一覧表を掲示している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	入居者参加の避難訓練を(2回/年)実施し避難経路の周知を図っている。また、担当消防署より資料を提供してもらおうなど協力を頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	カンファレンス時の項目としても取り上げ、居室に入る時はノック・声かけを行い了解を得るようにしている。また、面会者来所時は基本的に居室対応してプライバシーの確保に努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	生活の中での会話・表情から思いを感じ取りできる限り実現できるように支援している。 外出(買い物・祭り・1日旅行など)の企画は、自身の希望によって参加できるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかな日課はあるが、個々の体調・希望に合わせて、個別対応している。 レクリエーションは個別・数人で行う物など数種類からの選択ができるようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服装を自身で選択できるように支援している。 髭剃り・整髪は、声かけ・介助などにより実施している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備(食材下処理・テーブル拭きなど)・調理(味付け)・片付け(下膳・洗い物など)声かけをしてお手伝い頂き、食事時間を制限せず、個々のペースで食事を楽しんでもらっている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	盛り付けに配慮し、誕生日メニューなどの工夫を凝らしている。 水分・食事摂取量が少ない方は、個別表で詳細な把握に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々にあった物品を使用し、毎食後、自身でできる方は声かけをして、介助の必要な方は義歯の洗浄など口腔内の清潔保持を支援している。		

グループホーム福治の里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表によりパターンの把握をしている。誘導、見守り、介助など個々に合わせた支援を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便目標を2回/週として、排泄チェック表を利用し個々に応じた調節をしている。また、食事内容の工夫、水分補給に努め、体操、散歩など運動不足の解消を図っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	日課としては、午後入浴が基本だが、希望時、必要時などは、時間帯を限らず随時入浴支援している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の睡眠パターンを崩さないように配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人記録内に薬の説明書をファイルしており、いつでも確認できるようにしている。 服薬確認には、工夫を凝らし誤薬を防止している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事作業(洗濯・洗物・下処理など)を共にしたり、レクリエーションは1名から数名単位で実施するものと数種類(貼り絵・ボール遊び・塗り絵など)を提供し、好むものに参加されている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	可能な限り、買い物などの外出に同行している。また、本人の思いを家族に伝え協力いただき、実現できるように支援している。		

グループホーム福治の里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の了解を得て現金を所持し、外出時には財布を所持して各自の欲しい物が購入できるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時に随時対応している。 昨年は、クリスマスカードを希望者と共に作成し、郵送された入所者の方もいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースは入居者同士のトラブルがないように常に見守り、スタッフ間の声かけを行っている。 家庭的な雰囲気作りを心がけ、回想を促せる物を配置したり、動きのある物、季節を感じられる物を作成している		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	スタッフは、個々の好みの場所を把握しており快適な空間を提供できている。また、談話やレクリエーション、読書など数人で過ごしたり各自の、目的に合った過ごし方を工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の協力のもと、本人の好む家具、使い慣れた道具類を配置したり、写真やカレンダーなどで工夫をしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	事故防止委員会を1回/月開催し、安全点検の実施をして危険箇所の改善をしている。残存機能を生かした支援、個々に即した補助器具(コール・足元灯)などを活用している。		